
零番隊長転生記

死神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

零番隊長転生記

【Nコード】

N6624Y

【作者名】

死神

【あらすじ】

零番隊長が無断で現世に普段着で遊びに来ていた。だが来た時トラックに気づかず轢かれてあっけなく死亡した・・・が、死んだはずなのに生きていた。死神の力は継続しているだから助かったと思いきや体全体が縮んでいて隣にはルフィが！前の生活習慣とは全然違う新しい暮らしに苦労するわ、海賊がうじゃうじゃいるわ。と、大海賊時代で頑張る話。

1 第二の人生の始まり

「きゃ、きゃ？（ここは、どこだ？）」「
ん？ちよつと、待った。きゃ？つてなんだ？

「きゃきゃー！？（お前は誰だよ！？）」「
いや．．．．何故普通に喋れないんだ？

「？」「お！レオ！兄ちゃんだよー^^」
兄ちゃん？なんだ、この子供^{ガキ}は。

「？」「おい、ルフィ。ゴム人間なんか嫌われるだけじゃねえのか？」
ゴム人間？
あと、この餓鬼は『ルフィ』って言うのか。じゃあ、あのおっさん
らは？

2

ル「シャンクス！嫌われないよ！レオだつて笑ってるよ。」
まあ、嫌われないように笑ってるだけだが。
で、このおっさんは『シャンクス』か。聞いた事は無い。

ル「シャンクス、海賊船に乗せてよ。」

「．．．．．ん？ちよつと待てよ。海賊船？海賊が居るのか？

いや、海賊なんて現世でも見たことが無いぞ？ちよつと、記憶整理
するか。

たしか、1時間前俺は山じいに無断で現世に遊びに行ったんだっけ？しかも、普段着に着替えて。これはもう違反行為なんだけどな。

「……あ。俺、現世に着いた時、体に物凄い衝撃を受けたよな。確かトラックに轢かれたっけ？ああ、なんて馬鹿なんだ。」

だから、今体が小さくなってるんだな。……体が小さく？

まさか、転生って奴か！？乱菊が言ってたな。確かよく小説に出てくるって。現世で流行ってるって。俺はそのパターンか……。だとすると、前とは違う世界になるよな……。だって海賊が居るし。

このおっさんも海賊か？へへ、海賊には見えないけどな。そろそろなんか喋ってみようか。分からないだろうけど。

「きゃきい？（ルフィ？）」

ル「シャunks！レオが今！ルフィって言った気がする！」

シャ「何！？レオ！おれの名前も！」キラキラキラキラしてるな！。

とりあえず言っておくか。

「きゃんくしゅ！（シャunks！）」
あれ？なんか言えるようになった？

シャ「おお！」

??「おれはルウ。言ってみて！」

「るう？」

あ、言えるようになったかも。

ルウ「おお！凄い！」

??「おれはベンだ。」

シャ「ええ！？ベンも頼むのか！？」

ベ「別にいいだろ？」

「ベン！」

完璧に言えるし。

ル「レオ〜凄いぞ〜。」

。ありがとうなルフィ。でも・・・なんか・・・眠くなってきた・・・。

「ふぁ！（はっ！）」
寝てた……orz。

ル「あ！起きた〜！」

ドツカアアン

「ふえ！？（何だよ！？）」

何が起きた！？

あと、シャンクスは？居なくなってる。

ル「大変だ。じいちゃんが帰って来た！」

いや、普通そこ喜ぶところだぞ？

うん？海兵？

海兵「ガープ中将！手荒です！」

ガ「うつさいわい！」

海兵「？あ！」

ガ「なんじゃ？」

海兵「先に行ってます！剃！」

剃？剃って何……瞬歩より遅いじゃん。なーんだ。

スタッ。

海兵「君がルフィ君？で、この子がレオ君？」

ル「そうだ！」

「ふぁゝ！！（うん！）」

海兵「（レオ君可愛い。）向こうでなんか食べない？」

ル「え！？行く行く！」

海兵「（ルフィ君も食欲旺盛だもんな。）じゃあ、先に行っておいで。レオ君は僕が預かるよ。」

ル「おお！はい。」

うおーい！肉>俺かよ！？

海兵「レオ君？」

「きゃゝ！（誰ゝ！）」

そつえばこの海兵誰だよ！？

海兵「あ、僕はフェリーだよ。」

フェリー！？船じゃないんだからさ、もうちょっと良い名前付けてあげれば良かったのに。可哀想・・・

「ふえりー？」

ル「あ！ちゃんと言った！レオすげー！」

ありがとう。

フェー！？まだ生まれたばかりなのに。天才かなー？」

うーん。どっちかというと、前世の記憶があるからだよ。でもさ、死神の力はあるんだ。あの黒鷹と銀虎と青龍が精神世界に居るのを確認したからな。

ガ「ほ」。さすがわしの孫じゃ！」

え？この人が俺の爺さん？・・・え？このジジイなんか強そうだな。

なんか俺、今日から新しい人生ですが調子が狂いそうです。

2 修行で誤って

あれから、4年の歳月が経った。

え？経ち過ぎ？だって何も無かったし。あ、エースには会った。サボにも。

で、今無人島に居るんだよねー。なんでかな？このジジイ！！覚え
てろ！

何か無いかなー？

ガオオオ！！

うん？巨大な・・・熊？え！？虚並の大きさ！？何コレ！コルボ
山より大きいよ！！

ガオオオ！！！！

てってれ〜 とりあえず逃げよ〜。

うゝん。木の上に行こう！

タッタッタッタ。よっこらせっ！ふう。登れた。

・・・・・・。うん？なんだこれ。グルグル模様が付いた
バナナ？何コレ。いいや、食っちゃえ！！なんて適当なって言われ

そう。

ガブッ

・・・・・・・・・・・・・・・・うえええ。なんじゃこりゃあああああ！！！！！！

不味っ！！何これ。最初辛いと思ったら苦くなって。ああ！！何だこれ！！

うつ・・・・・・・・痛い目に遭った。

ガオオオオオ！！！！

やっべ！登ってきやがった。

降りよう。

ガオオオ！！

飛べたらいいのになー。

バサッ、バサッ。

ええええええええええ！！！！！！！！！！！！！！！！なんだこれ！！！！

スタッ

ええええええ！！！！！なにこれ。

ジャバアアア

え？水？

ペロツ・・・塩辛ーーーーい！！！！海水だーーーー！！！！！！

なんなのーーーーー！。こんな無人島やだあああああああ！！！！

出るーーーーー！！！！！！

バサツ、バサツ。

え？今の格好は・・・・・・隼！？さつき水で今は隼！？

なんなんだよこの世界は！

「どうなっただあああああああ！！！！！！！！！！」

って、飛びながら叫んでたら、

ドンッ！！！！！

何かに……マストに当たった。海軍軍艦のマストに。

何故か元の姿に戻ったが、そのまま落下。

ドテッ。

「痛い……。」

フェ「！？レオ君！？」

フェリー？フェリーなの？

ガ「なんじゃ、どうした……。レオ！？なんでここに居るんじや
！」

なんでこのジジイが居る？……。ジジイの軍艦に当たったのか！？

「うう……。」（泣）

俺ってこんなに泣き虫だったか？

ガ「うー、ウターンじゃ！」

ウターン？どこに行くんだ？

ガ「海軍本部に戻るぞい！最速での！」

海兵達「「「はっ！！！」」」

息びったりだな。じゃなくて、頭が・・・・・・・・orz。

バタリ

フェ「レオ君！？」

俺の意識はここで一旦途絶えた。

2 修行で誤って（後書き）

いつも思うけど、他の人と比べると短い・・・。
（汗）
一応努力しようとしてますよ。

3 悪魔の実って何ぞや？

ハロー、ハロー。エブリバディ！（某21世紀少年2弾の）・・・じゃなくて、こんにちは。俺は、モンキー・D・レオ。なんで苗字が「モンキー」なの？あとこの真ん中の「D」は何？なんかの略か？

只今、海軍本部と言う所に居るそうです。

まあ、俺は無人島で巨大な熊に追いかけて木に登ってぐるぐる模様の変な実を食べて、何故か水とか鳥になれて飛んでたらジジイの軍艦のマストに当たったと言う事故が起きて今に至るわけ。

もう、どうなってもいい・・・いや、良くない！俺は、戻る！東の海に戻るんだ！

「俺は、東の海に戻る！」
と、言ってみた。オリス広場で。

ガ「何言ってるじゃ！最強の海兵になるんじゃ！」

「俺まだ、4才ですが！！」

フェ「4才にしては賢いよな。」

他の海兵さん達もうんうん頷いてる。頷くなああああ！……！ジジイの味方するんじゃねえよおお！……！

「でもさ。無理でしょ。」

ガ「駄目じゃ！最強の海兵になるんじゃ！」

「あ、そういえばさ。」

ガ「スルー!?」ガーーーン

「ぐるぐる模様の果物見つけたんだけど。」

ガ「何!?」

「なんか知ってんの？」

ガ「それは、“悪魔の実”じゃ！」

悪魔？悪魔の実って何ぞや？

「何それ。」

ガ「今、レオが言った果物の名前じゃ。」

「へー。変な名前。」

フェ「まあ、確かに。」

ガ「その実どうした。」

「食った。」

全海兵「「「「何イイイイイイ！！！！！」」」」

ガ「何で食ったんじゃ！」

「無人島で熊に追いかけて木に登ったらそれがあってなんとなく食った。」

フェ「適當・・・・。」（汗）

ガ「何の実じゃ？」

「えーと、確か鳥になれて。」

ガ「トリトリの実か。」

「水にもなれたけど？」

ガ「何！？二種類！？科学班――！！！！！！」

？？「はい。はいはいはい。なんでしょう？」

「誰だよお前。」

？？「ループです。科学2班長です。で、なんでしょう。」

ガ「何じゃったけ？」

「はあ。えーと、鳥になれて「トリトリの実ですね。」最後まで人の話を聞けええー！！」

ルー「すみません。」

「水にもなれたんだけど。何の実？」

ルー「あ、それ実際に在ったんですね。その実はトリウミの実です。」

「トリウミの実？」

ルー「はい。鳥ならなんでもなれますし、海人間にもなれます。」

「わお。すっげー実食ったんだなー。」

ルー「悪魔の実の能力者全員、海が弱点で海水に触れると力が抜ける。でもレオ君は海人間でもあるからカナズチにはならないね。」

「へへ。って言う事は、ルフィにも勝てるのか。」

ガ「そうじゃの。じゃなくて、海軍本部に残れ。」

「やだ！戻るもん！」

嫌だよ、こじ。

「今度来るから。それで良い？」

ガ「うむ。分かったわい！」

「じゃ、バイバイ！」

鳥に〜なる〜う 何に〜よお〜かな〜

「う〜ん……………じいちゃん。」

ガ「お？なんじゃ？」

「鳥って言ったら？」

ガ「焼き鳥。」

「食い物しか思いつかねえのかこのクソジジイ。」

フェ「フェニックスとかは？」

「フェニックスって不死鳥だろ？」

フェ「うん。（あ、不死鳥マルコと同じ？）」

なってみよう！

ボワアア

「うつひよ————！！青い炎出てきた！」

フェ「本当になっちゃった……………」

ル「才能ありますね。」

「じゃあね————！！！」

バサツ、バサツ

ふう。これで戻れる——！！！！！！！！

3 悪魔の実って何ぞや？（後書き）

キャラ壊れた・・・。

4 6年後

ドーン島に無事帰還し、途中コルボ山でルフィとエースと決闘したが、基本的にフーシャ村で手伝いをしていた。

なんで、フーシャ村に居るか。それはコルボ山に行った時の事をちよつと話してみれば分かつて貰えると思う。

く帰還してから2日後く

俺はコルボ山に久しぶりに行ってみたくなった。サボが行方不明なのは知ってる。

ドンツドンツ!

ダ「誰だい!ここは山賊の家だぞ!……居ない?」

「お邪魔しまゝす。」スタスタ

ダ「下!?てか誰だよ!」

「ルフィ!エース!」

ル「ああ!!レオく!!!!」

エ「レオ!?!」

ダ「レオってコイツか?」

ル「そうだ!」

エ「大きくなっ たな。」

「あ、どうもこんにちは。」

ダ「お、おう。」

「俺のバカズがお世話になってます。」

ダ「バカズ？」

「エースとルフィの事。」

ダ「ああ、なるほど。」

「俺は、モンキー・D・レオ。」

ダ「モンキー！？」

「ガープの孫で、5つ違いのルフィの弟です。」

ダ「ルフィの弟！？逆じゃねえのか！？」

「いえいえ。事実です。」

ダ「……………」（驚）

驚いて固まってるよ。

「そっいえば、ルフィ。俺も能力者になっ たぜ？」

ル「なんの実だ？」

「トリウミの実。さっき2日前に海軍本部から帰還して来たんだけど、聞いたらそれだった。しかも希少種なんだよ。希少種は全部で4つ。その4つの内の1つだよ。」

ル「えええー！！！！！！！！！！」

エ「二日前は海軍本部に居たのか！？」

「おう。」

ダ「なんだってー！！！！！！！！！！」

あ、そういえばこのおばさんカーリー・ダダン。

マ「まーまー、お頭落ち着いて。」

こいつ能力者じゃないけど顔が鶏人間のマグラ。山賊なのに常識人。

ダ「お前はここに？」

「いや、俺はフーシャ村に住んでる。たまに遊びに来るけど。」

ダ「そうかい。」

「だって、この2人だけでもつらいでしょ？」

ダ「分かってくれるのかい？」

「ああ。」

ダ「すまないね。」

「ああ。俺、もう村長家に戻らないといけなから。じゃあな！」

ル「またな〜〜!!」

エ「また来いよ〜〜!!」

そう、あの二人は食欲がヤバイ。ジジイが居るみたいなものだし。ちなみに俺は普通の量だ。たまに食い過ぎるけど。

そして、フーシャ村では。

「なあ、それ持っていくよ。」

『すまないね。じゃあ、あそこの倉庫に持って行ってくれるかい?』

「了解。」

倉庫から距離は100Mそんなに遠くない。

さっさと運んで次に移る。結構早くこなしてる為、村人や村長にも褒められてる。

普通の子供なら喜ぶけど、俺は普通にする。

村長に「お前は大人になったら何になるつもりだ？」と言われた。

エースとサボとルフィは海賊だが、

「俺は海賊になるつもりはない。賞金稼ぎか海軍だ。」と答えたところほつとされた。どんだけ心配してんだよ。海賊なんてなりたくないよ。

たまにジジイがやってきたりしたが無事に帰ってもらったりして、6年後。

ルフィは15才。エースは18才。俺は10才になった。

去年エースが海に出た。今日の新聞に手配書が出ている。

政府は一応危険視はしているようだ。

この日は何故か海軍本部の巡回船が港にやって来た。どうやら、俺がここに居ることが分かったようで巡回しているついでに来たという。海軍本部に来て検査をするだけと聞いて、ルフィや村人に説明し、巡回船に乗り込む。そして、出航しドーン島から離れた。

この船は巡回船兼快速船だった。しかも、この快速船世界最速のようだ。4時間後、エニエスロビーについた。

ゴゴゴゴゴゴ

正義の門って言う巨大な扉が少し開く。しっかしデカイ。なんだよこの大きさ。邪魔だなー。

ん？何か見えて・・・目的地の海軍本部か。あ、じいちゃん発見。

でも、検査だけじゃないと思うんだよねー。嫌な予感。

4 6年後（後書き）

時間経つの速いです。

5 ややこしい名前の所で検査すんな！

6年ぶりの海軍本部。そんなに変わってないな。

ガ「レオ？」

しっかし、馬鹿でかいよな。でも空座町にはそれよりデカイのがあったけ？あやふやだな。何回も行ってたのに。

ガ「聞いたるのか！？」

「ん？何？」

ガ「やっぱり「フェリー」、検査早く終わらせたい。」……ガ
ーーーーン

ふう。海軍に入れ！って言われそうだった。危ない、危ない。

フェ「あはは。ガープ中将ドンマイです。」

「フェリーー！！」

フェ「あ、はいはい。こっちだよ。」

あんなジジイどっか行っちゃまえ！

なんて思いながらフェリーの後に付いて行つて3分。着いた場所は
“ 検調査用特別大部屋 ”。

名前長くね!?

・・・うん? 検調査? 検査と調査の略語!? ええ!? 検査だけじ
やなく調査もすんの!?

やっぱり、嫌な予感は当たるんだね。

ガチャ

あああああああ!!!!!! フェリー開けやがった!!!!

「え? 何この大人数。」

フェ「大丈夫。科学班はあの扉の向こうだから。」

「まだ居るの!?

フェ「僕は付き添いですが、ここに一応残っておきます。」

『はっ!!--!!--!』

「はい。」

『それでは検査を始めるので。・・・』

検査の内容は、身体測定・体力テストだ。

まあ、こんな感じの事を書いてもつまらないから省略。
ちなみに結果だが、（この中は作者が10の時の結果。）

身長 - 151・1cm （同じ）

体重 - レオ「書くな！これだけは！」秘密

握力 - 右21kg、左20kg （同じ）

ハンドボール投げ - 34m （10m下がる）

ハンドボール投げは俺に合わせてか、野球ボールだった。

反復横とび - 40回 （÷2）

全体起こし - 46回 （20）

幅跳び - 2m （1・40m）

長座体前屈 - 35cm （48cm）

持久走1km - 5分47秒（7分）

シャトルラン - 48 (25)

って感じた。……何故作者も参加してるんだ？結果だけ。

フェ「はい。終わり。」

「ふう。……え？終わり？」

フェ「そくだよ？調査はやらないから。」

「良かったー。」

フェ「はいはい。着替えて。」

って、ややこしい名前の所に連れて来るなよ！

もっと分かり易い所在と思うぞ？つたく。

5 ややこしい名前の所で検査すんな！（後書き）

なんか今回も短い気がする。短い？・・・やっぱり短いよね！。

はあ。今テスト期間なんです。だから短い・・・です。

6 ルフィの旅立ち

俺がフーシャ村に帰還して翌日。

ル「レオ！」

もうルフィ行っちまうのか。

「てかルフィ。大樽を乗せたボートで行くつもりか？」

ル「いいんだこれで！！ここから始めるんだおれは！！」

『ボートつてお前~~~~~！！』

ル「サボ~~~~~！！！！見てくれ！！！！おれも海へ出るぞオ~~~~~！！！！」

「サボ・・・本当に見てくれよ？あの弱弱ルフィが海に出て海賊になる所を。」ボソッ

『??.?』

ル「サボが一番・・・！！！！エースが2番目！！！！おれは3番目だけど負けねエぞ！！！！待ってるよエース！！！！すぐに追いつくぞ！！！！」

「そうになると俺は最後だな。海賊じゃないけど。」

『なんだルフィ！！叫んだりブツブツ言ったり何かのまじないか？』

確かにそう聞えたりするかもな。俺達以外は。

『エースって誰だ？』

あ・・・そうだ村人は知らないのか。

ル「まじないじゃねエ挑戦状だ！！！！」

『？？』

ル「じゃ！！おれ行くからよ！！！！」

「ああ。ルフィ、仲間集めてエースや俺に勝って頂点目指せ。行つて来い！！！！ルフィ！！！！」

ル「おう！レオ！お前が海賊じゃなくてもおれは海賊だ！海賊らしく奪いに来るからな！」

「ハハッ。どこかで待ってる。」

グオオオオ！！

『まずい！近海の主だ！』

「ルフィ。お前の強さを見せてやれ。」

ル「レオ！今まで俺を強くしてくれてありがとう！あとこいつ倒すからよお！」

「ああ！倒して行け！！」

ル「ゴムゴムのオ………銃^{ヒストル}！！！！！！！！」

ガアアン！ ザッバアアアン！！！！

『『『わあああああああああああ』』』

「ルフィ……。必ずどこかで会おうな。」

ル「すー……っ。」

「うん？あの台詞か？」

ル「よっしゃ行くぞ！！！！海賊王におれはなる！！！！！！！！」

「行つて来い。」

6 ルフィの旅立ち（後書き）

一応ここは原作を使いました。

7 2年後ではなく来週に

ルフィが無事旅立ったその後、俺は村長家でボーーーーーッとしていた。

『プルプルプルプル』

あ？電伝虫？

『プルプルプルプル、ガチャ』

とりあえずとつてみる。

『村長？』

「なんだ、じいちゃんか。」

『おお、レオ。じいちゃんじゃ。』

「で、用件は？」

『ルフィは居るかの？』

「ルフィか？もうコルボ山には居ないぞ？」

『何！？何処に居るんじゃない！』

「海。」

『海じゃと?』

「そう、海。さっきボートで海に出た。近海の主を倒して。」

『何?!』

「海賊になったよ。無事に。」

『何が無事じゃ!』

「まっ、大丈夫だろ。ルフィだし、俺が教官として鍛え上げたからな。」

『何?そんな事じゃったらわしが引き受けるのに!』

「ルフィが「じいちゃんはおれを殺そうとするから嫌だ。」って言うてたからさ。」

『違うわい!わしは最強の海兵にしよう!』

「無理だよ。ルフィは何かを目指したりするとなかなか折れないし。」

『むう。じゃあ、レオは?』

「俺は、海賊にはならないからな。別に指名手配にされても良いけど。」

『何故じゃ。』

「そんなの気にしないから。狙われても勝つ自信あるし。」

『わしは指名手配にせん！から大丈夫じゃ！』

「サンキュー。」

『ちよつと待て。じゃあ、レオも出るのか？』

「ああ。多分二年後かな？」

『何故二年後なんじゃ？』

「エースもルフィも17歳に出てるから。」

まあ、俺の場合、体が今年でストップするから分からないけどな。
不老不死状態になってるんだよ。まあ、死神のままだし。

『なっ、海賊と同じにするな！』

「分かったよ。俺は来週出る。」

『そうしろ。』

「ああ。じゃあなじいちゃん。」

気づいてる奴もいるだろう。俺があのだジイを「じいちゃん」って
言ってる事を。これは完璧にルフィの影響だ。ルフィに「レオもじ
いちゃんって言ってよ。」ってさんざん言われたからだ。はあ、
あの時は疲れたぜ。

でも、来週か。
ルフイに会ったりして。
(笑)

7 2年後ではなく来週に（後書き）

予定決まったぞー！！！！
今日更新するよ！

8 旅立ち

あの電話の日から一週間が経過。

「フーシャ村の港」

「船で行かないのか？」

「ああ。俺は特別な能力を生まれつきで持っていてな！」

「そうなのか。」

「ああ。鳥で行く。」

「気を付けろよ。レオ。」

「ああ！」

「ガープの奴には言ったのか？」

「先週じいちゃんに言ったよ、村長！」

「そうか。」

「もしかしてルフィに合えたりして。」（笑）

「あ、くれぐれも海賊にはなるなよ！」

「わーてるって！もう。心配すぎ！」

『ふふっ。気をつけてね。レオ君』

「マキノさん。行ってきます!」

『行つてらっしゃい。』

「俺は4番目か。じゃあ!」

俺は白い不死鳥になる。

『わあああああああ』

『初めて見た。』

バサッバサッ ヒューー

無事フーシャ村から旅立つた俺は自由気ままに島に行く。

サボが1番、エースが2番、ルフィが3番、俺が4番。

海賊。海賊。自由航海。

なんだこの4兄弟。俺だけ自由気ままに航海かよ……。
へんな兄弟だな。

笑われそう。
た・・・。
誰にだ？俺も分からないこと言っちゃまっ

8 旅立ち（後書き）

短い……。ごめんなさい。見捨てないで……。!!!!
だって、タイトル通りに書いたらこうなった……。!!

9 赤ッ鼻捕獲

この人達いったい何者？

なんとなーく飛び続けていたらサーカス集団が居たからなんとなく寄ってみたけど・・・海賊だったらしい。しかも胴体が無い！？本当に何者？

??「おい！聞いてんのか！！」

「聞いてるよ。赤ッ鼻。」

??「！！・・・貴様~~~~！！！！！！」怒

「あー、相当怒ってるよ？誰のせいだろうな。」

海賊「「「お前だよ！！！！」」」バシッ

突っ込まれたよ。

??「俺はな！“道化”のバギーだあ！！懸賞金1500万Bだあ！！」

「なんだ。たいした事無いじゃん。」

バ「なんだとお!!」

「だったら、俺の兄の方が強いと思うがな。」

バ「兄？」

「俺は、モンキー・D・レオ。」

バ「モンキー?・・・はっ!まさかつ!」

「兄はモンキー・D・ルフィ。知ってるか？」

バ「なっ!?!そのゴム野郎にさっき倒されたんだよ!!」

「あ、なら俺と戦わない方が良いよ?」

バ「何故だ!」

「ルフィを強くしたのは俺だからな。しかも、ルフィに負けた事無いし。」

バ「なんだと!?!」

「でも、捕まれ。」

バ「は?」

「破道の四、白雷。」

バ「ギイヤアアア!!!」

海賊「「「ギヤアアア!!!」」」

よし、これで海軍基地に持って行こう。

あ・・・俺能力あるじゃねえか！悪魔の実の！それで行こう！

じゃあ、鵑で行く？下に網持って。漁師に貰ったし。

「おりゃあ！」

バサリ

海賊「あ？なんだこれ？網？え！？網？！」

バ「俺ら、捕まったー!!」

海賊「「「ええええええ!!!!!!」」」

鵑になつてゐる俺はそいつらに言う。

「今から牢獄行きだ。ありがたく思え。」

ははっ！ルフィより強いから簡単だ。

海賊「「「はああああ!!!!!!」」」

バ「ここまでか……。」

ネガティブな船長だな。こんな海賊団は簡単に滅びるさ。

「海軍159支部」

ここは港？で良いよな？じゃあ、海賊団^{これ}を渡しに行くか。ちなみに海賊船はもう海の藻屑だ。帰れないから住居を与えてやるって言っ
た。まあ、牢屋だけだな。

兵「うん？なんだあの力モメ。」

「よいしょ……！！！」

兵「能力者！？」

兵「何事だ！？」

ジャキンッ

人型に戻ったら銃向けられたよ。別に襲いに来たわけじゃないのに。

「あゝ。」

兵「なんだ！」

「コイツらを渡しに来ただけなんだけど？」

兵「え……申し訳ありません！銃を下ろせ！」

兵士達が銃を下ろす。

兵「それは……道化のバギーですか！？」

「うん。」

兵「では、受付に来てください。それも持って。」

「分かった。」

どうやらコイツらの船長は賞金首だったらしい。

受付員「ああ。報告は受けてます。えーと、名前は？」

「モンキー・D・レオ。15歳。」

受付員「じゃあ、出身地は？」

「東の海ドーン島フーシャ村。」

受付員「少々お待ちください。」

待っていると、海兵が来た。

海兵「あ、換金はこっちだよ。」

付いて行くと、でかでかと“換金所”って書いてあった。

ガチャ

海兵「えーと、道化のバギー1500万Bでいいね？」

「はい。」

海兵「おーい！1500万！」

「あ、ちょっと待って。」

海兵「持ってきたぜ。ほらよ。」

どんっ！物凄い量の札束だな。こんなにいらないうて。

海兵「ちょっと待ったって、どうした？」

「そんなにいらない。」

海兵「え？」

「1000万で良い。500万は返す。」

海兵「お、おう。」

海兵「何でだ？」

「だって一人だぞ？また捕まえられるし。」

海兵「そうか。よし、偉い！」

「まあ、いきなり保管していた金が1500万も消えて、なんか起きた時に後悔しないようにさ。金は大事にな。」

海兵「ああ。頑張れよ！」

「サンキュー。」

レオがいなくなった換金所では、

海兵「なんか15歳に大事な事言われた・・・。」

海兵「ああ。でも、モンキーってなんか聞いたことあるよな？」

海兵「ああ。なんだっけな！。海軍に居たような？」

海兵「まあ、いい。仕事・・・ってそんなにないか。」

レオの印象が強かったようだ。

9 赤ッ鼻捕獲（後書き）

ルフィ達って進むの早いよねー。だから書き易い。

10 自称 元海賊団員（前書き）

なんか今のところ毎日更新中でしたー。

10 自称 元海賊団員

海軍基地で1000万Bを貰い、どっかの村を探していたら島を発見。

その村の名前は“シロップ村”。

甘そうな名前をしてるな。なんでシロップなんだ？どこを見てもシロップと関係があるのは無いし。そんなことは、置いといて。

??「海賊だあああ!!!」

海賊？どこにも居ないが？

??「一人海賊だああ!!!」

もしかして俺のことか？

??「わああ!!!見たああ!!!」

俺だな。

「ちょっと、待て。俺は賞金稼ぎだ。」

??「なあーんだ。賞金稼ぎか・・・」

??「ええ!？」

??「賞金稼ぎ?!」

??「見えない。」

「何だとコラ。」イラッ

??「ああ！怒らないで！」

「怒ってねえよ。」

??「お前は誰だ！」

「……お前から名乗れ。」

??「おれはピーマン！将来の夢は、大工の棟梁になること！」

ピーマンって、おい。髪型もピーマンだな。じゃあ、もしかしてコイツは、たまねぎか？でもう一人は……にんじん？なんでこいつだけ分かりにくいんだよ！

??「おれはにんじん！将来の夢は、小説家になること！あとおれは情報収集が得意だ！」

あ、にんじんで合ってた。

??「おれはたまねぎ！将来の夢は、酒場の経営をすること！」

「俺は、モンキー・D・レオ。賞金稼ぎをやっている。夢は……この世界を変える。大海賊時代を終わらせるのが夢だ。」

た「ええ!？」

に「ちよつと待った!モンキーって……麦わら帽子の。」

「ルフィか？」

に「そうそう!そいつ!カヤ嬢を守ってくれたんだ!」

「そうか。俺はルフィの弟だ。」

ピ「おれたちは元ウソップ海賊団員だった!」

「自称な。あと、海賊ごっこだろう?たぶんルフィは自称船長を仲間に入れた可能性は高いな。」

た「入れたぞ!」

「やっぱり。」

あの馬鹿^{ルフィ}何やってんだ。もう。

あと、どこに居やる!

そんな事を考えてるときルフィ達はココヤシ村で魚人海賊団と戦闘

中で、

レオは“自称”元ウソップ海賊団員の9才少年3人組と仲良く会話中だった。

11 鷹の目

シロップ村を出発して、航海中……いや、航行中だ。飛んでるし。

ん？大海原に小船一隻発見！行ってみよう！

「こんにちは。」

??「誰だ。」

「うん？」

??「ミホークだ。」

「ミホーク？」

ミ「貴様は？」

「モンキー・D・レオ。」

ミ「麦わらの兄弟か。」

「あ、そうだよ。俺はルフィの弟。」

この台詞、あと何回言うんだろ？

ミ「そうか。」

「ミホーク、ここは何処だ？」

ミ「バラティエの前だ。」

「ああ、あの噂の戦うコックが居る海上レストランか。」

ミ「行くのか？」

「いや、腹へってないし。兄とは全然食欲が違っからな。あとじいちゃん。」

ミ「普通の量か？」

「ああ。ミホークって、異名ある？」

ミ「“鷹の目”だ。」

「へー、聞いたこと無いや。」

ミ「海に出たばっかだろ。」

「ああ。でも、俺は賞金稼ぎだけどな一応。」

ミ「ほほう。捕まえるのか？」

「いや、今はそんな気分じゃない。」

ミ「……残念だ。」

「はあ？」

ミ「一回、実力を見てみたいと思ってな。あそこに海賊船残ってる。その船を切ってみろ。邪魔だ。」

「OK。」

青龍、行くぜ。

抜刀して、縦に大きく一振り。すると放たれた大斬撃が海賊船を襲う。

バキイイ

海賊船は全て大斬撃にて海の藻屑になった。

ミ「ほう。なかなかの腕前だ。」

「どうも。」

ミ「多分、世界でトップに立てる日は必ず来るだろう。」

「トップか。」

ミ「そうだ。」

俺、前の世界でトップだった。霊圧とか。

「ミホークは現在トップか？」

ミ「ああ。レオなら大丈夫だ。」

「ありがとう。」

何故か、世界一の剣士“鷹の目のミホーク”と気が合うレオ。二人はミホークの小船で1時間ぐらい話していた。

第三者が見たらどう思われるんだろうか。いろんな感想が出てきそうで怖い。とレオは思っている。

逆に、将来はライバルの“赤髪のシャンクス”を超えて“海賊狩りのゾロ”も超えて世界一になるのでは？とミホークは思っていた。

超巨大なサイクロン――！！！！！！！！！！

でかつ！！！何コレ。見た事無いよ。サイクロン自体。聞いたところ普通はこんなに大きく無いんだよ。

やばくね？これ、猛スピードで来る――！！逃げよう！！！！

バサバサバサバサバサバサバサバサバサバサバサバサ

・ ・ ・ 鯖に聞えるのは俺だけ？ いや聞えるよね？ 鯖鯖鯖 ・ ・ ・
 つて。 鯖食いてー！！ じゃねえよ！ 早く逃げ ・ ・ ・ うおおおお
 ！！！！？ ？ ？ あれつて ・ ・ ・

海王類！？海王類吹き飛ばされてるうつつう！！！！！！？？？ええええ！！！！！！？？？

ビュウオオオオオ!!!!!!!!!!

あ？この突風は、ここに向かってる！？

ビュウオオオオ！！！！！！！！！！

「ギアアアアアアアアアアア……！！！！！！！！！！！！！！！！」

吹き飛ばされたあああああ！！！！！！

あああああああ————どうかにぶつかってあの世……か。

短い人生だったな・・・。

12 サイクロン（後書き）

結構冷静ですが、たまにネガティブになる主人公。

死にません！・・・ですがどっかにはぶつかります。

あと、短いことにあとで気づいた。

13 革命家ドラゴン

ビュウウウウウー—————

はい。まだ吹き飛ばされてます。いつまで飛び続けるんだよ。

もちろん、ちなみに元の姿に戻ってますよー！！

突風に吹き飛ばされてから3日が過ぎたよー！！幾らなんでも飛びすぎー！！

ビュウオオオオー

うおっ！！いきなり急降下！？

「ああああああああああああああああああああ」

コロコロコロ・・・ピシャアアアー！！

うおー雷〜

ドカアアアアン

『あ、落雷を間近で見たことある？落ちたらこんな音するよー！』
Y作者』

おい。作者。いきなり出て来るな。

ゴツーーーーン

「うつ、痛〜〜〜〜」

ル「うお？！レオ？！」

「あ？あ、ルフィ？」

ル「レオ！おれの仲間になれ！」

「いや、今度。5回目にしろ。」

ル「おう！5回目な！」

「今日は1回目。」

ル「おう！」

??「逃がさないぞ麦わら！！」

ル「ああ！ケムりん！」

ケムりん？なんだそれ。

ケム「ホワイトブローー！」

うお！？悪魔の実の能力者か！！煙だー。．．．あ、だからケムりんか。

ケム「くっ！何故貴様が邪魔をする！」

ル「うお！誰か知れないけどありがとな！ゾロ！サンジ！行くぞー！！！」

？？「男の船出を邪魔して何が悪い。」

ケム「くそっ！たしぎ！行くぞ！」

たしぎって言う女性剣士が答える

た「はい！」

それより、あのローブの人は誰？

？？「お前はルフィの仲間では無いのか？」

「俺は仲間ではない。てか誰だよ。」

??「モンキー・D・ドラゴン。革命家だ。ルフィの父親だ。」

「ふえ!?!」

ド「?」

「じゃあ、お前、俺の父親でもあるじゃねえかよ!」

ド「どういう意味だ?」

「俺は、モンキー・D・レオ。ルフィの弟だ。」

ド「弟が存在していたのか。」

「おう。」

ド「しっかりしてるな。」

「俺らの一族が変なだけだよ。」

ド「そうか。」

「俺はしばらく賞金稼ぎを続ける。革命家は入らないかもな。ごめん。」

ド「謝る必要は無い。もう時間だ。では。」

俺の実の父親は歩いて行つた。

革命家ねえ！。俺も革命してみようかな？

13 革命家ドラゴン（後書き）

革命・・・・・・・・・・どうかできるかも？

14 主人公設定&オリキャラ設定

〃主人公〃

【名前】

現在：モンキー・D・レオ

元：本田^{ほんだ} 翔^{しょう}

【性別】

男

【出身地】

現在：東の海ドーン島フーシャ村

元：不明

【誕生日】

現在：7月22日

元：7月28日

【身長】

現在：153・4cm（伸びた）

元：187・6cm

【家系】

祖父：“海軍の英雄”と呼ばれる、モンキー・D・ガープ。

父親：“世界最悪の犯罪者”と呼ばれる、モンキー・D・ドラゴ
ン。

兄：“麦わらのルフィ”と呼ばれる、モンキー・D・ルフィ。

元の家系は不明。

【年齢】

見た目：10歳

現在：12歳

この世界の人達や生き物がデカイ為、身長的に10歳に見える。

【異名】

“死神のレオ”

残酷では無いが、自らが「死神が使う技だ。」と言う為この異名になった。

【能力】

希少種トリウミの実。

その名の通り、鳥人間になれ海人間になれる、自然系や幻獣種よりも珍しい悪魔の実。

鳥と海水を組み合わせる事も可能。

普通の悪魔の実を買う場合、1億B必要だが、この希少種は10億Bは要る超貴重物。

【戦い方】

・斬魄刀（一ノ三刀流）

- ・ 霊圧や覇気
- ・ 悪魔の実の能力
- ・ 特殊能力

【覇気】

覇龍の覇気

武装色や見聞色が無くてもこれが三つすべて機能できるチート覇気。

【弱点】

- ・ 暑い所
- ・ 信号機（三大将）と大仏（元帥）（海軍本部で散々な目に遭った為。）

【その他】

最初は賞金稼ぎを行っているが、ある事をしてしまった為、賞金首に。でもある人物を捕まえ、海軍に協力した事から元賞金首になる。その後は、本編にて。

ローグタウンで偶然会った兄ルフィに5回目に会ったら仲間になると約束するが、性格上仲間になる確率は結構低い。

【転生の原因】

現世でトラックに轢かれた事故。

「オリキャラ」

【名前】

フライント・D・フェリー

【性別】

男

【出身地】

東の海ドーン島フーシャ村

【誕生日】

6月21日

【身長】

236・8cm

【家系】

父親：“海賊潰し”と呼ばれる、フライント・D・ベック。
(階級は海軍本部少将。現役海兵。)

モンキー・D・ドラゴンが義理の兄。

【年齢】

24歳

【異名】

“刀斬り”

【階級】

海軍本部少佐 海軍本部中佐（来月）

【戦い方】

- ・六式
- ・最上大業物の鬼神きしんと大業物の和邊霞わへんかいちの一・二刀流。

【覇気】

見聞色と武装色の使い手。霸王色は存在しているが覚醒していない。

【弱点】

- ・ガープの拳骨
- ・寒い所
- ・暑い所

14 主人公設定&オリキャラ設定（後書き）

こんな感じです。なんか質問あったら、一言欄に書いてください。

15 偉大なる航路入り

それから3日後。今、俺は偉大なる航路つて所へ無事に入った。

偉大なる航路はある意味、海賊の墓場らしい。ルフィが無事に航海していればいいけど。祈っておいたから大丈夫かな？

で、ここはどこさ。歓迎されたけど。賞金稼ぎだらけ？の町・いや、島？

「あの〜。」

なんか声をかけてみる。

「はい。なんですか？」

「ここはどこですか？」

「ウイスキーピークです。」

「へ〜・・・って、君、ちょっと、耳貸して？」

「あ、はい。」

「あ、その男性も。」

「マ〜マ〜マ〜 はい。」

三人で人が居ない所へ行く。

「君って、アラバスタ王女だね？」

「え！？」

「あーあまり、声を出さない方がいいよ。」

そういえば、ルフィがここに向かってくるのを確認したから。

「何かあったの？俺、一応、賞金稼ぎだけど、ここの組織には所属していない。」

「分かったわ。」

王女はビビと言うようだ。そして、今自分の国の状況を話してくれた。

「OK。もうすぐ、ある海賊団がここに来る。その海賊団はビビを助けてくれるはず。その船長は俺の兄。名前はルフィ。俺はレオ。ルフィは良い奴だから。その海賊団にちゃんと話してみるよ？俺はもう行くから。じゃあな！」

「あ、ちょっと待って！ルフィさんに異名は？」

「通称“麦わらのルフィ”だよ。兄達に助けて貰っわけ。じゃ！」

「ありがとう！レオさん！」

「おう！また会おう！」

あ、そういえば新聞。

ペラリ

東の海の賞金稼ぎ、通称“死神のレオ”偉大なる航路に入る。

え？俺の事書かれてる！？まあ、今も死神みたいなもんだし別に否定はしないけど載せるか？ただの賞金稼ぎだぞ？

ん？「特徴は懸賞金全額貰わないこと。」・・・、まあ確かにそうだけどさ。え？みんな全額貰うの？そんなに要らないと思うぞ？何に使うんだよ。

まあ、いいや。とにかく、旅に出よう！・・・って、もう出てるか。

15 偉大なる航路入り（後書き）

短くてすみません！！

16 義兄

「うつつ。寒っ。」

「!?レオ!」

「ああ!エーーーースーーーー!!!!!!」ガバツ

寒いところに自然系メラメラの実を食べた炎人間こと、“火拳”こと、海賊王の息子エースが現れた。

「どうしたんだ!」

「温かい……。」

「寒かったのか。」

「うん。」

「アラバスタに今から行く予定なんだけど、行くか?」

「おう!」

「よし、ストライカーに乗ってくれ。」

「分かった。」

（1日後）

「おい！起きろ！」

「ふあい！」

「レオ？」

「・・・？」

「大丈夫か？俺今から飯屋行ってくるから。後で来いよ。」

ダダダダダダダ

「・・・・・・速っ！！」

感想これしか思い浮かばないよ。

そう言えばエースが言ってた“黒ひげ”って何？

ひげ？ひげがどうしたのかな？今度、海軍本部に行く事が会ったら聞いてみよう！

「ったく。たしぎ、麦わらは絶対に此処に来る。」

「何で分かるんですか？」

「勘だ。」

「勘かよー!!」

ツッコミ入れてしまったではないか!!

「誰だ。」

「モンキー・D・レオ。ルフィの弟だよ。」

「ええ!? 弟なんかいたんですか!?」

「うん。誰?」

「たしぎです! よろしくおねがいします!」

「よろしく!」

握手しちやったよ。

「職業はなんですか?」

「賞金稼ぎ。」

「ああ! “死神のレオ”ですよ!」

「ええ!? そうなの!?」

「知らなかったのかよ。そのケムりんの言う通り、ルフィは来るよ。多分。」

「「「「「多分かよ！！！！！」」」」」

多くの海兵につっこまれました。

16 義兄（後書き）

あ、一応言っておきます。今回話はやる気が在りません。
今日、もう一つ更新するので。だって、今眠いし。

洋楽を大音量で聴いて睡魔に襲われないようにしてるだけですから。

17 2回目

アラバスタに到着して一日。

昨日はエースとは会えず、兄を探している海軍さんに、会ってしまった。

まあ、俺は賞金首ではないから捕まえないから別に気にしないけどよ。

で、今日飲食店に入ったら、エースを見つけた。

「もぐもぐもぐ。！！でござ！でままでどこに行つてたんだよ！」

？いままで何処に？

「お前が何処に行っていた！」

カランカランッ

「・・・！！“火拳”！！！」

あ、スモーカーが来ちゃったよ。でも戦ってもエースが優位だな。

「zzzzzz」

「「「寝たああ！！？」」「」」

「はぁ・・・。こいつ、死んでないから大丈夫だよ。店長。」

「そうかい。」

「レオ、“火拳”は寝てるのか？」

「ああ。昔からだよ。」

「そうか。」

「――」

「今、何か聞えたよな？」

「そうか？」

「飯――――！！！！」

バゴオオオン！！

扉が吹き飛びルフィが飛んできた。

「おお！？レオも居たのか！！」

「おう。」

「俺も居る！」

「め――――し――！！」

「無視されたな。ドンマイ。」

「……………」怒

「がつがつがつ」

「……相変わらずだな。ルフィは。煙野郎ローグタウンに居ただろ？」

「煙野郎だと？…確かにローグタウンには居たが。」

「間違った。ケムりんでもいいや。ルフィがそう言ってたし。」

「何？お前、あの時居たのか？」

「おう。ルフィが捕まっている時、目の前に居ただけだな。」

「目の前に居て、賞金稼ぎなら捕まえてもいいだろ。手伝えば良いのにな。」

「ちょっと期待していたから逃がした。」

「何の期待だ。」

「多分、ケムりんも帰ったら階級上がったりして。」（笑）

「ああ？なんで上がるんだよ」

「勘だから理由までは分からないよ。」

「……なんだ。」

「げっ！！ふあのときのふえふりん（あの時のケムりん）！がつがつ・・・ゴクン。」

「逃がさないぞ。ホワイトブロー！！！」

「それはやらせないぞ。陽炎！」

「くそっ！火拳。何故邪魔する！」

「エーーーースーーーー！！！！！」

「ルフィ、お前は無茶をたくさんしゃがって。」

「エースー！！！」

「火拳！！！」

ゴオオ！

「エース！レオの所に飛んでる！」

「何！？」

「ったく。ウォーターウォール水壁」

水の壁で火から自分を守った。

「能力者！？」

スモーカーが驚く。

まあ、煙は火も水も弱点だから勝てない。

「俺は、このグループで一番強いから。挑もうとするな。」

17 2回目（後書き）

変な終わり方をしてしまいました！すみません・・・。

18 一味と義兄と海軍と俺（前書き）

そういえば今日地震が5：55に発生したみたいです。

たまたま横に携帯電話が在って、揺れてから緊急地震速報のサイレン？が鳴りました！。自分は意識が半分起きてたので聞えました。練馬区は震度2であまり揺れませんでした。

でも、夢の中（2つ目）では地震の夢だったので現実だったのか分からなかったよ。ちなみに正式に起きたのが10：30。夢を4つ見ました！。

- 1．警備会社会的な所に友達と一緒に見学。
- 2．地震（この場合、茨城でした）
- 3．ハワイ旅行（夢の中で基地に入って兵士に捕まる。）
- 4．アメリカ軍基地？に居候。

この4つ、多分、繋がってるんですよ。
でも、1つ目が面白かった。

電話の着信音がそれぞれ違うから友達と掛けまくったけど、怒られた。（笑）

たまに、こういう夢があります！っていう、この小説とまったく関係無い余談でしたー！。

18 一味と義兄と海軍と俺

「レオ、すっげーーーー！！！！」キラキラ

「あ！ルフィ！」

「ルフィ、ここに居たか。」

「げっ！海軍！！」

「え！？海軍！？捕まっちまうよ～～！！」

ローグタウンで見た、ルフィの仲間と・・・・・・・・喋る鹿？

「鹿が喋った。」

「鹿じゃねえ！トナカイだ！」

トナカイらしい。

「名前は？」

「おれはトニートニー・チョッパーだ！」

「能力者？」

「そつだ！ヒトヒトの実を食べた人間トナカイだ！」

「へ。かわいい。」

「べつ、別に嬉しくないゾ！コンニャロ〜！！」
嬉しいのがバレバレだぞ？

「レオ！」

「なんだルフィ？」

「俺ら、今用事があるからまた後で会おうな！」

「ああ。分かった。」

「何言つてんだ！！死神！」

「良いじゃねえか、ケムりん。」

「殺すぞ。」

「やってみろ。」

「この十手には海楼石が含まれてる。だからお前に勝てるぞ。」

「それはやらせねえ！」

エースが出てきた。ルフィは仲間と中央へ向かっていった。

「ったく。何故、自然系2人と対立しなければならない。」

「自業自得だ！」

「俺は自然系じゃないけど。」

「「え？—はあ？」」

「俺が食べた実は希少種だよ？」

「希少種—！？？」

「世界で四つしかない実か。厄介だな。」

「だから、俺は敵対しないって！」

「じゃあ、何故、麦わらを捕まえない！」

「え？兄だから。」

「は？」

「レオ。お前、ジジイと似てきたな。」

「なっ！？あんなじいちゃんと一緒にするな！」

「じいちゃん？」

「気にするな。いずれ分かる。」

「気になるだろうが。」

「……………」

「レオ、俺も、ちょっと探検してくる！」

走って消えたエース。

この場に居るのは海軍と俺。

「中央に行った方が良さかもな。さっきから金属音とか銃声聞えてきてるし。」

「おれも行く。」

「スモーカーさん!？」

「コイツは賞金稼ぎだ。海賊でもない。先に行かせて貰う。」

「おう。」

18 一味と義兄と海軍と俺（後書き）

タイトル思い浮かばず。 適当に。

15 BWのボス敗れる

ドオオオン・・・ガキイイン

俺は今反乱が起きている中央広場にいるのだが。

「それにしても、生で見るとスゲー反乱だな。」

その声に反応したのか、海軍、BW、王国軍、反乱軍、ルフィとその仲間達以外の全員が戦闘を止めた。

「賞金稼ぎでも、これは無理でしょ。」

どっかの海兵が呟いた。

「あれは・・・！！」

王国軍が俺に期待している。

「王国軍ではなく俺らの味方になってくれる筈だ！」

反乱軍が王国軍の意見に反対する。

「“死神のレオ”って、私達と同じ賞金稼ぎゲロ？」

「はい、そうですよ。ミス・ファーズデー。」

「じゃあ、勝利は私達ね！ゲロゲロゲロ！」

あの変な2人組はBWだ。そっちは勘違いしてるようだ。

「おい！時計台に居る変な2人組！俺はBWを潰すことが今の目的さ。残念だったな！」

「同じ賞金稼ぎだゲロ？」

「BWの最終目的はアラバスタ王国を手に入れるだろ？」

「うっ！・・・それがどうしたゲロ！」

「反乱軍はただのせられただけ。」

「なっ！！！」

反乱軍が完璧に動きを止める。

「アラバスタ王女、ビビとアラバスタ王国護衛隊長イガラムの二人は命懸けでBWに潜入した。」

「王女・・・。」

王国軍も動きを止めた。

「ウイスキーピークで麦わら海賊団と此処に来ている！BWのボスは、」

「知っているのか！」

海軍は知らなかった情報がどんどん出て来る為、聞いてくるが無視。

「王下七武海の一人、サー・クロコダイルだ！」

「「「「「！！！？？」「「「「「」

「だが、BWはアラバスタ王国を手に入れるだけではなく、ある兵器も手に入れたがっている。」

「兵器？」

「名前は言わない。BWの本当の目標は……」

「目標は？」

スモーカーが質問してくる。まあ、答えるから無視している。

「世界政府転覆だ！！だが、麦わらのルフィが今そいつと戦っている！ルフィが勝たなければ未来は無い！」

「「「「「！！！？？」「「「「「」

「後、その爆弾は不発のだから。」

「何ーーーー！！！！いつの間にか掘り返られてる！？」

長ッ鼻と協力したのだ。

言い切ったと同時に建物の中から人がとんで来て、雨が降った。

ドサッ

ザザザザー………

「ルフィが勝ったあああ！！！！」

「ルフィ！！」

『わあああああああああああ』

長鼻が叫び、涙を浮かべて喜ぶビビ王女。

理解した、王国軍・反乱軍・国民がBWのボスが敗れた・BW崩壊の事と雨が降った事に喜んだ。

「ルフィ。よくやった。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6624y/>

零番隊長転生記

2011年12月5日19時52分発行